

2018年度（平成30年度）

事業報告書

特定非営利活動法人 トラ・ゾウ保護基金

1 事業の成果

健全な野生の世界の象徴であるトラ、ゾウなどの野生生物の生息地において、実効的な保全対策を立案・実行する能力がある現地 NGO 等に対する支援を行ないました。

また、これを補完する事業として、野生生物製品の需要減少、日本国内外の野生生物およびその生息地の保全について、政策提言および普及啓発を行ないました。

チャリティー・イベントを実施し、活動への賛同者から寄付を集め、保全活動実施等の資金としました。保全活動の計画、実施状況および成果について、生物学、法律などの専門家を交えて評価検討し、詳細を報告書あるいはホームページ等に公表しました。

活動成果を、会報（年次報告書、通信）、ホームページ、メールマガジン、SNS 等を通じて、会員・寄付者に報告、一般に普及しました。

2 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【14,967】千円)

| 定款に記載された事業名 | 事業内容 | 日時 | 場所 | 従事者人数 | 受益対象者範囲 | 受益対象者人数 | 事業費(千円) |
|---------------------------|--|------------------------|--|-------|--------------------------------|--------------------------------------|---------|
| 生息地における野生生物保全活動事業 | インドのトラ、西表島のイリオモテヤマネコの保護地域の指定・管理に必要な調査、保護地域管理としてのパトロール等の支援、地域住民の普及啓発等を行った。 | 通年 | インド(マハラシュトラ州) 日本(西表島) | 3人 | 生息地で活動する森林局、国立公園のレンジャー等、西表島在住者 | レンジャー等100人、西表島在住者2000人 | 7,563.5 |
| 生息地外における野生生物保全に関する教育・普及事業 | 野生生物製品の消費見直しなど生物多様性保全の普及啓発（会場イベント、情報発信）を行った。 | 通年 | 全国(会場イベント10回) | 40人 | 会場イベント参加者、HP、SNS 閲覧者 | 会場イベント参加者延べ1000人、HP、SNS 閲覧等延べ10,000人 | 2,699.5 |
| 野生生物保全に関する政策提言事業 | 象牙市場の閉鎖、イリオモテヤマネコに対する観光利用の影響抑止等野生生物保全のための調査報告書の作成、関係機関に対する意見書提出、意見陳述等を行った。 | 年2通(報告書) 意見書・要望書 | 関係機関(意見書・要望書)、事務局(記者レク)、ホームページ掲載等(報告書) | 5人 | HP、SNS 閲覧者 | HP、SNS 閲覧延べ10,000人 | 3,550 |
| チャリティー・イベントの開催事業 | 当基金を支援する実行委員会が実施する生息地における保全活動等に対する寄付を確保・維持するための会場イベント、情報発信に協力した。 | 年1回(会場イベント) | 東京 | 4人 | 会場イベント参加者 | 会場イベント参加者50名 | 0 |
| 会報発行事業 | 年次報告書・通信の発行、ホームページ、SNS の運営を行った。 | 年8通(通信等) 通年(HP、SNS) | 全国 | 10人 | 会報閲覧者、HP、SNS 閲覧者 | 発行4,000部(通信等8通)、延べ10,000人(HP、SNS) | 1,154 |